

大河内研ニュースレター No.3



研究室 HP : <http://www.okochi.env.waseda.ac.jp/about.html>

December 22, 2007

担当教員から



御父兄およびOBの皆様、年の瀬を迎え、慌ただしい日々をお過ごしのことと存じます。当研究室では、昨日、一昨日と学生諸君の今年最後のゼミ発表を終えました。4月には頼りなかった4年生諸君ですが、学会発表ができるレベルまで成長してくれました。早いもので、本日は3年生諸君の研究室配属があり、7名の新しいメンバーを受け入れることになりました。来年はM2が6名、M1が6名(女子学生1名)、4年生が7名(女子学生1名)の計19名という陣容になります。3年生諸君は仮配属ですが、4月には1人も欠けることなく進級してくれることを期待しています。

当研究室では、本日より来年1月7日まで冬休みに入ります。4年生諸君は卒論提出を2月1日、卒論発表を2月8、9日に控えていますので、冬休み返上で頑張ることになります。M1諸君はすでに就活が始まり、研究との両立で忙しい日々を過ごしています。

本日も送りますニュースレターは3号になります。今号もニュースレター係の松延君(M1)と竹村君(4年生)が編集を担当してくれました。新たなコーナーとして「クローズアップ・学生諸君!」という学生インタビューを開始しました。研究室における学生諸君の生活実態や学生諸君の考え方を、御父兄およびOBの皆さまに少しでもお伝えすることができれば望外の喜びです。

研究室の行事報告

・大気環境学会報告(2007年9月5日~7日)
岡山理科大学で行われた大気環境学会で修士課程1年生の前島、松延、三宅の3名が口頭発表を行いました。3名とも初めての学会発表ということで、不安な面持ちでしたが、無事に発表と質疑応答を終えることができました。学会発表後には、日本3名園の一つである岡山後楽園を散策しました。また、学会に参加していた神奈川大学井川研究室のみなさん、徳島大学准教授・竹内政樹先生とも交流を深めることができました。その後、3人は山陰を訪問し、一時の夏を楽しみました。

・箱根ハイキング(2007年11月24日)

日本女子大学宮崎研究室の皆さんと箱根に合同ハイキングに行ってきました。朝9時に小田急線小田原駅に集合しましたが、始発で来た人もいたようです。小田原駅から登山電車にりましたが、大変な人出で電車内では身動きがとれませんでした。強羅駅からは紅葉がきれいな坂道を徒歩で登りました。普段から山登りをされている大河内先生のペースについて行くのが大変でした(笑)。大湧谷では黒たまごを買って噴煙の中で記念撮影をしました(次ページ写真)。皆様お疲れ様でした。



クローズアップ・学生諸君!

今回はこの二人、4年生の水野君と横山君を紹介し、来月4月より水野君は東京大学大学院、横山君はシステム・エンジニアの道に進みます(写真左:水野君, 右:横山君)。

司:二人とも大河内研は第一志望だった?

Y:第一志望でしたが、成績が悪く、入れるとは思ってませんでした。漠然としたイメージで、水環境に興味があったこととしっかり研究できる雰囲気が一番の理由でした。

M:確か第一志望だったような、水や土壌、それに環境というキーワードは魅力的でしたね、やはり第一志望だったのでしょうか。

司:じゃあ簡単に研究テーマを紹介して。

Y:テーマ名は「フォトフェントン反応による大気中および水中有害汚染物質の分解」です。簡単に言うと、環境・人体に有害で、処理が難しい有機化合物の処理方法を確立することが目的です。この研究を選んだ理由は「浄化」という言葉に惹かれたからです。浄化技術の研究はやりがいがありそうでしたし、面白そうな研究だなと思ったんです。

M:テーマ名は「都市近郊山間部における溪流水中微量金属のキャラクタリゼーション」です。神奈川県西部の東丹沢で溪流水を採取し、溪流水に含まれる微量金属から環境評価を行っています。サンプリングは体力を使いますので日頃から実験の合間にジムで鍛えています。朝が早いなど辛いこともありますが、自分がとってきた試料には愛着がわきます。

司:二人とも夜遅くまで実験を続けるなど、かなり熱心に研究に取り組んでいますね。ところで研究室でのニックネームは?



Y:横山なので、横チンと呼ばれています。先生を含めた一部の人は、なぜかチンを強調しています(笑)。

M:マッスルと呼ばれています。自慢の筋肉を評価され、本当に嬉しく思います。

司:来月は女性も配属されるので、こういったあだ名を持つ人は貴重な存在ですよ。社会に出てからも大切にしてください。

司:新しい生活にむけて一言お願いします。

Y:まだ社会に出る実感がありません。卒論で頭がいっぱいですが、来年もここで実験しているんじゃないかって錯覚してしまいますね。こんなに充実した学生生活になるとは思いませんでした。この経験を社会で生かしていきたいですね。

M:僕の場合はこれからも研究室での生活が続きます。ただ、大河内研での活気ある生活はやはり特別なものでした。こういった雰囲気を新しい研究室に吹き込んでいこうと思います。

司:今後のお二人の活躍を期待しています。

後期を振り返って

後期は、週間レポートと月1回のゼミをこなしているうちにあっという間に終わりました(注:マスターのゼミは2ヶ月に1回)。研究は学生同士で協力して、熱心に取り組んでいます。大河内先生をはじめ、多くの方々にお力添えをいただきました。これから4年生は卒論、M1は就職活動で忙しくなりますが、研究を地道に続けていくつもりです。

今後の研究室予定

滝口祥一、為近和也、島田隼平、関圭祐、岡田卓也、竹村尚樹が日本化学会第88春季年会(2008年3月)でポスター発表を行います。